社会医療法人近森会

ひろっぱ 1

発行
2016年12月25日

Vol.366

www.chikamori.com ● 高知県高知市大川筋一丁目1-16 〒780-8522 tel. 088-822-5231 発行者●近森正康 ／ 事務局●寺田文彦

近森病院 ● 新体制スタート

「生き残るものとは」

近森病院院長　近森 正康

1月1日付けで、近森病院院長を拝命しました。診療報酬改定や地域医療構想など医療環境が激変するなかでの院長交代で、たいへん身が引き締まる思いです。

近森病院は開院から70年になりますが、開院当初より救急医療に特化した病院づくりを行なってきました。「選択と集中」を繰り返し、機能を絞り込むことによって医療の質を上げて労働生産性を高めてきました。

「患者さんにとってよりよい医療」、「職員にとって働きやすいやりがいのある職場」を構築していくために、これまで以上に職員の研修や教育を充実させて、地域の医療機関との連携をより強化していく必要があると思っています。

進化論で有名なダーウィンの「生き残るものとは、最も強いものではない。最も賢いものでもない。それは変化に最もよく適応したものである」という言葉があります。

近森病院はこれまでも絶えず変化してきました。これからも自由な発想で、柔軟に変化し続けていきたいと考えます。病院一丸となってがんばっていきたいと思いますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

ちかもり　まさやす

大切なスタッフとともに楽しく

近森病院副院長　川井 和哉

当院に勤務してから25年という歳月が流れました。スタッフや仲間に恵まれ、充実した仕事をさせていただきました。赴任時8名だった内科医も50名を超え、5カ年計画の完成で全ての建物が新しくなりまさに隔世の感があります。救命救急センター、地域医療支援病院、災害拠点病院、初期臨床研修病院など、高知の医療を担う中核病院としてのハードが整ってからの就任となり、責任の重さに身が引き締まる思いです。

当院内科には前副院長の浜重直久先生が築き上げてきた、「各専門医である前に全体を診る内科医であれ」、「何ができるかではなく何をすべきかを考える」という伝統があります。医療を取り巻く環境は厳しいですが、当院がまっとうな医療を当たり前に継続していくことが、高知の医療を支えることになると確信しています。

「どうせやるなら楽しくやろう」をモットーに、患者さんや他の医師、そして、何よりも院内のスタッフに信頼される医療を続けていく所存です。素晴らしい近森病院を築き上げるため、皆さんのご協力をよろしくお願いします。

かわい　かずや

厳しい医療環境の中でも三原則を守って

近森病院副院長　入江 博之

今月から副院長を務めさせていただきます。

ご承知の通り、現在の医療界における大きな問題点として、日本の人口減、特に高知県ではその人口減少が著しく、また、医療保険財政のひっ迫があります。これらに伴い、高齢先進県である高知県では、ベッド数の減少、また、急性期医療から療養さらに介護への移行の促進が考えられます。こういった、医療情勢がますます厳しくなっていく始まりの年にあたると思います。

幸い当院は後継者に恵まれ、今回3代目になる近森正康新院長が誕生します。落ち着きがあり健全な判断を下せるリーダーに成長してくれるものと期待しています。彼を助けて三つの原則を守りたいと思います。

1. 患者さんに貢献すること。　2. 職員に貢献すること。
3. 社会に貢献すること。

これらの原則に則り、自らの良心に恥じることがない行動を取っていきたいと考えています。万一これらの原則に反するようなことが発生しようとすれば、強く諫言するのが務めと思っています。よろしくお願いします。

いりえ　ひろゆき

近森病院院長退任にあたって

社会医療法人近森会
理事長　近森 正幸

時の分水嶺

近森にとって今年は激動の 1 年間であった。今年 4 月の診療報酬改定は 10 年後に振り返った時、日本の医療が大きく変わった「時の分水嶺」ともいえる改定であったと考えている。マイナス改定の影響は稼働率や単価の低下による売り上げの減少、さらに人件費のコスト増などにより、全国的に収益の急速な悪化が起こっている。

そうしたなかで、高知県は人口が減少し患者数が限られているところに、全国平均の倍の病床数と 3 倍の療養病床、さらに急性期基幹病院が 6 病院、救命救急センターが 3 病院あり、機能分化が急速に進んでおり、今回の改定の衝撃が最も強く表れたのが高知の地域医療であった。なかでも近森病院は 5 カ年計画による建築コストや人件費増で全国でも最も大きな影響が出た病院のひとつであった。

救命救急医療の基幹病院として

近森病院が全面的な増改築工事を行い急性期病床を 338 床から 452 床へ増床したことは、救急入院患者数、重症入院患者数を飛躍的にのばし中四国でも有数の病院になったことで、高知県の救命救急医療の基幹病院として、生き残る大胆な「投資」を行ったことを意味している。

5 カ年計画を始める前の 7 年前の近森病院と現在を比べてみると、「一般急性期病院」から「高度急性期病院」に機能、規模ともに飛躍的に充実している。以前の近森病院のままであれば、ベット数も抑えられ、月に 200 〜 300 台の救急車のお断りが続いていた。建物や設備も 21 世紀の高度急性期医療に耐えられるものではなかった。

より高度でしなやかな連携を

近森は従来から「選択と集中」で機能を絞り込み、医療の質を上げ労働生産性を高め、地域医療連携や病棟連携、チーム医療などのマネージメントで豊富な人材や建物、設備への投資を行い、「患者さんにとっていい医療」、「職員にとって働きやすい、やりがいのある職場」を作ってきた。今回の診療報酬マイナス改定により、マネージメントを徹底し、より高度でしなやかな連携を進める必要が出ている。「地域医療連携」では前方連携も後方連携もより個別、具体的で密接な「アライアンス連携」が求められている。

高齢の重症で人手のかかる患者さんを看護師の多い高規格病棟で診て、落ち着けば一般病棟へ移すという「病棟連携」も、これからは入院患者数と重症度に応じた高規格病棟の病床数と組み合わせが大事であり、看護部による運用の精緻化と効率化が求められている。

「チーム医療」においても看護師の業務を看護というコア業務に絞り込み、自立、自動する専門性の高い多職種とチームで業務を行う「病棟常駐型チーム医療」を行っているが、これからは業務量とスタッフの数や質、それらの組み合わせの高度なマネージメントが求められている。

病院一丸となって

従来の診療報酬マイナス改定では 4 月には売り上げが減少するが、数カ月で自然に回復していた。今回は患者単価と入院患者数が低下、売り上げの減少が続いており、これまでの改定とはストラクチャー評価からアウトカム評価に変わり概念が全く変わっている。そのため、改定後の売り上げの減少と膨大な赤字の原因を究明し、新しい経営方針を打ち出さざるをえなくなった。

8 月には医師全員と主任以上の全スタッフに集まってもらい、危機の共有と救急のお断りを減らすなどの努力を行い入院患者さんを増やし稼働率を上げることと、徹底したコストの削減をお願いした。その成果が 8 月から 9 月には表れ、経営が著しく好転している。

さらに理事会の若返りを図り、機動的理事会へ再編成し現場に密着した意思決定ができる理事会とした。それと平行して院長直轄の病院運営改善委員会により、実務者によるワーキンググループでコミュニケーションを深めセクト主義を排し、具体的な議論を行い現実的な対応策を提示してもらった。部科長会も再編成し、みんなで具体的対策の討議と決定ができる場として、その決定を合同運営会議により周知徹底するとともに、各種委員会も再編成し、必要に応じて委員長や委員も若手に交代し、活性化を図りアウトカムの出せる委員会に転換しつつある。

新しい体制で

これまではトップが医療環境を整え、スタッフにいきいきと働いてもらえば運営や経営は順調に行われていたが、これからは情報を公開しオープンな場で現場が考え決定し、みんなで心を一つにして変革する時代になったと思う。

時代は今、大きく変わろうとしているがその変化の本質はいまだにはっきりとしていない。そのため病院の医療現場で起こった変化を若い感性でとらえ、若い力で対応を手探りで進めるしかなく、院長職から退くことになった。2017 年 1 月から近森病院は近森正康院長、川井和哉副院長、入江博之副院長の新しい体制でスタートする。患者さんや医療スタッフのニーズに基づいて病院病床のさらなる機能アップと絞り込みを行い、機能分化と連携を進め、近森病院をひっぱっていただきたいと切に願っている。

ちかもり　まさゆき

● 医療今昔物語 ● 皮膚科　3　最終回

「ネットで見たので来ました！」あくまでも参考ていどに

近森病院皮膚科　科長　髙田 智也

以前からテレビ番組で皮膚病が取り上げられると、翌日、心配になった患者が皮膚科を受診することがよくあります。

最近はテレビや新聞以外にインターネット（ブログやSNSを含む）をみて、皮膚科を受診される方が増えてきています（新聞の切り抜きをもって来られる方より、少し若い世代が多い印象です）。

皮膚は臓器の一つですが、「目で見える」臓器なので、ブログ等に病変部を掲載することもできますし、画像検索をすればいくつもの疾患を実際に見ることができます。何気なくネットで検索している内に、「もしかして自分は○○病かも？……」と、心配になる気持ちはよく分かります。「ネットで見たのとソックリです」と受診される方も少なくありません。手軽に情報を入手できるようになり、早期受診のきっかけになることは良いことだと思います。

ただ、テレビや新聞と違いインターネット、特にブログやSNSの内容は必ずしも正確ではありません。治療法も個々によって異なりますし、薬の副作用も人それぞれです。稀に一方的な視点で不安を煽るような内容のものもありますが、情報は鵜呑みするのではなく参考程度にとどめるのがいいでしょう。

たかた　ともや

1月の歳時記

ストレチア (Strelitiza)

近森オルソリハビリテーション病院
理学療法士　小笠原 美紀

和名で極楽鳥花、英名でBird of paradiseと呼ばれる、鳥のような形をした美しい花です。観葉植物として好まれる花ですが、私の趣味であるタヒチアンダンスでは衣装の一部として使用する事があります。その衣装は色々な葉や花などの植物を使用して手作りするので、触れていると自然を感じ穏やかな気持ちになると同時にパワーを貰えるように感じます。

おがさわら　みき

絵・近森病院
附属看護学校
事務局
南幸子

リレー　エッセイ

恩師と再会して

診療支援部企画課　渡邊 奈由

私は大学時代4年間を京都で過ごしました。大学では社会学を専攻し、ゼミでは計量社会学を学びました。その時にお世話になった教授が今年還暦を迎えられるとのことで、そのお祝いパーティーに先日出席してきました。会には歴代のゼミ生が集まり、久々に学生時代に戻った気分で楽しい時が過ごせました。

教授とは、大学卒業以来、十何年もお会いしていない上、数百人のゼミ生がいるので、私のことは忘れられているだろうなと思いつつ、会場に向かいましたが、きちんと覚えていてくださり、とても嬉しかったです。またそれだけではなく、後日自宅に手書きのお礼状が届きました。一緒に出席していた友人に聞くと、忙しい中一人一人に直筆でメッセージを書き、送ってくれた様です。この時代に手書きのものをもらうことはほとんど無くなった気がします。その暖かいお心遣いに尊敬の念を覚えるとともに、私もそのような気遣いの出来る人間になりたいと思いました。

大学卒業以来、長年連絡を取っていなかった友人ともこのパーティーをきっかけに再会し、医療業界以外の話も色々と聞くことができました。医療業界に限らず様々な職種の人と交流することは、自分にとってもプラスになることですし、仕事のヒントを得ることが出来るかもしれません。公私ともに様々な人と出逢う機会は多いですが、これからも人とのつながりを大事にしていきたいと改めて思いました。　わたなべ　なゆ

看護部 キラリと光る看護

「みんなちがってみんないい」

※金子いすず「わたしと小鳥とすずと」より

訪問看護ステーションラポールちかもり
所長　看護師長　杉村　多代

「ラポールちかもり」は精神科専門の訪問看護ステーションです。今や急性期が過ぎたら住み慣れた場所に帰ることは当たり前ですが、近森会精神科は31年前から、退院された方たちに医療・福祉・保健と連携しながら、訪問看護をしてきました。

その頃は退院促進や在宅看護が珍しく、地元の新聞に近森の精神科が積極的に退院促進をしているとの記事を読んだのが私の入職のきっかけでした。

精神科の訪問看護と聞いて、どのようなことを想像されるでしょうか。説明時に必ず聞かれる質問「何をするのですか」には「お話ししながらこれからのことを一緒に考えていきましょう」とお伝えします。

私たちの使う技術は目に見える技術より見えない技術の方が多く、利用者の方の語りをお聞きしながらその方がその人らしく生活出来るようにあらゆる支援をしています。利用者から「来てもらって安心」「色々な情報を教えてくれるし自分でやろうと思う気持ちになれる」「気兼ねなくなんでも話せて楽になる」などと言っていただいています。

入院中とは違った顔で迎えてくれ、生きる工夫にその人らしさが見えるのが醍醐味です。今のままの自分でOKという自尊心があれば生きることが楽になります。その変化が見えるのが喜びです。

訪問は医療の知識はもとより、保健福祉・社会資源など幅広い知識や連携する力も重要で、利用者を通してたくさんの方と知り合うことが出来るのも魅力の一つです。

すぎむら　たよ

ザ・RINSHO 管理部　6

管理会計・資金管理能力の向上を目指して

総務部経理課
課長　武内　章二

経理課は会計に関する事務処理をおこなう部署です。会計期間は4月から翌3月、職員数は6名で業務内容は大きく次の通りです。

日々、財務会計で入出金を管理、請求領収書より各種の仕訳をして伝票起票、月次年次の決算書類を作成税務申告する。管理会計で決算書類より経営者の意思決定に役立つ資料の提出・報告を行う。資金繰り、金融機関対応ほか資金管理を行う。

日時業務：現金の出納管理、伝票の記帳整理

月次業務：取引先への支払い、月次決算（貸借対照表・損益計算書作成）、科別損益資料の作成

年次業務：決算業務、決算書を作成し税務申告、行政・金融機関へ決算報告

その他：法人の各種保険加入・更改手続き、税務調査の対応など

毎日の定型業務に追われ最も重要な「経営者への報告」がおろそかにならないように、全力をつくすことが経理課職員に求められているとあらためて認識しています。

医療法の改正により公認会計士等の監査が義務づけられ、これまで以上に税理事務所と密接に連携し、管理会計・資金管理能力の向上に取り組んでまいります。

たけうち　しょうじ

● 看護学校通信　13 ●

消防訓練をおこなって

平成28年9月26日、看護学校で消防訓練を行ないました。

今回は消火・避難訓練と、消火器・消火散水栓の使用訓練を行ない、火災時の対応を学びました。

火災は、発生を未然に防ぐことがもっとも大切ですが、いざ火災が起きた場合は、まず自分自身の命を守るということもまた重要なことです。

「あわてず」、「騒がず」、「冷静に」行動できるよう、これからも訓練を行なっていきたいと思います。

（上甲　浩道）

土佐足研究会

2016 年 10 月 19 日

土佐足研究会より、
足病進行撲滅について地域に向けての取り組み

近森病院　腎透析センター
看護師　フットケア指導士　川田 愛弓

「土佐足研究会」は、本年 1 月 4 日に、高知赤十字病院 形成外科 中川宏治先生を代表世話役として発足しました。

土佐足研究会は「防ぎえた足病進行の撲滅」を目的として、「フットケアによる足病予防と早期発見」、「医療機関による足病診断と治療、およびフットケア」、「治療後の足病再発予防」等に関わる学習と、多職種・多施設の連携を促進するための活動を行なっています。第 1 回（3 月）は神戸大学形成外科教授の寺師浩人先生をお招きしての記念講演を行ない、第 2 回（7 月）は近森リハビリテーション病院の理学療法士、相原一輝による「フットケアにおける靴選びの重要性」についてセミナーを開催しました。

今回 12 月 2 日に第 3 回セミナー「身近な足から診てみよう！やってみよう！」をテーマに、図南病院看護師、田内美樹先生が講師となり開催しました。会の運営にあたり、爪切り等の指導者として、近森病院フットケアチームのメンバー 5 名が参加協力をしました。

会場では 40 名程の参加者がペアになって、お互いの爪を用いて、爪切りの一連の手技について実践しました。

次回第 4 回は、来年早春に開催予定で準備中です。高知県内での各診療科・各施設・各職種のスキルアップとともに顔の見える連携を強めたいと考えております。興味のある方はぜひ参加して下さい。

かわだ　あゆみ

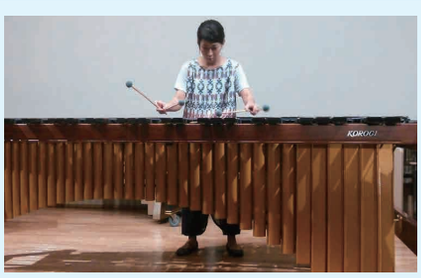
私の趣味

継続は力なり

臨床検査部　臨床検査技師
茅原 郁子

私の趣味はマリンバ、フラワーアレンジメント、お菓子作り、編み物、ソフトバレーやマラソンとたくさんあり、周りから多趣味といわれています。そのなかで最も続いているのがマリンバです。

マリンバとはアフリカ起源の木琴の一種で、音板の下に円筒形の共鳴管をつけたものです。小学一年の時に音楽会で木琴を弾いたのをきっかけに、９歳からマリンバを習い始めました。レッスン日には友達の誘いを断り、病気以外では休むことなく通い続け、今ではすっかり生活の一部となっています。いつの間にか苦手な４本マレット（片手に２本ずつ持ちます）での演奏も出来るようになりました。現在、夏のコンサートに向け、日々練習をしています♪



マラソンは短距離を中心に参加しています。周りには「健康作りのために走る」といってありますが、本当は走ることより、完走賞の商品と、終わった後にみんなで食べるお弁当が一番の楽しみです。

子供の頃から、何事もやり始めたら長く続けることが大事と母に教えられました。そのせいか、どれもやめることができず、多趣味化しています。

ちはら　いくこ

2016年　近森会グループ忘年会開催　ＭＶＰ受賞者

受　賞　者

	部　　門	受賞者	受　　賞　　理　　由
1	臨床栄養部	宮澤靖	近森会グループの臨床管理栄養士の育成を15年に亘り行い、医師、看護師をはじめ多職種からなる専門職と協力し、日本一の栄養サポートチームを作り上げてきた。さらに、全国に専門性の高い病棟常駐型栄養サポートチームを普及し、日本の医療を大きく変えようとしている。
2	看護部	青柳智和	看護師特定行為研修の施設認定において、診療看護師としての知識や経験を最大限に活かし、申請書類作成や備品の購入準備等、開講に向けた準備に尽力し、中四国初の認定施設へと導いてくれた。看護師全体のスキルアップを助長する一翼を担っている。
3	診療支援部 企画課	中澤章子	看護師特定行為研修の認可申請をはじめ、その他いかなる業務においても、きめ細やかで抜かりのない仕事ぶりは目を見張るものがあった。彼女の業務に対する姿勢は、関係者や課内の同僚にも良い刺激を与えている。
4	近森オルソリハビリテーション病院 リハビリテーション部	村井良太	運動器療法における超音波検査の導入やその普及に貢献した。医療従事者として常に前進する意欲、そして日々の弛まぬ研鑽を称える。
5	近森病院　ICU	森﨑朋菜	ICUのリーダーナースとして、後輩指導やベッドコントロールの中心的役割を担うとともに、術後の食事摂取不良やトラブルを抱えた患者さんの対応についても管理栄養士と一緒に看護師の視点で向き合うなど、一生懸命に仕事に取り組んでいる。
6	近森病院5階B病棟	田島路子	他職種に対しての気配りがすばらしく、いつもみんなが気持ちよく仕事が出来るように対応している。その丁寧な仕事ぶりを称賛する声も多く聞かれる。
7	画像診断部	田村淳也	TAVIや血栓除去の手術において、放射線技師としての経験や知識を駆使し活躍している。患者さんのケアに真摯に取り組んでおり、ハートチームの一員として、欠かせない存在である。

クリスマスツリー

毎年恒例、近森病院総合受付にBIGツリーが飾られました

近森オルソリハビリテーション病院

▲副院長交代の挨拶をする
浜重直久前副院長(左)と北村龍彦前副院長（右）

初期研修医

▲四国管財清掃部門を代表して表彰状を受け取る筒井潤ディレクター

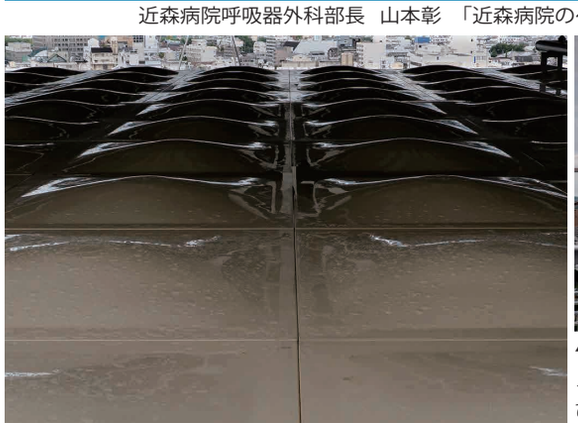
リ　ス　ト

チーム受賞			受　賞　理　由
8	四国管財株式会社	清掃部門の皆さま	早朝から夜間まで、院外をも含めた広い範囲の清掃業務を黙々と行っており、誠実で責任感にあふれた姿勢は素晴らしく、病院に求められている「清潔な職場環境と癒される空間づくり」に大いに貢献している。
9	褥瘡・皮膚・創傷管理委員会の３名	安松和美／山田愛／濱田亜矢子	専従の褥瘡管理者、企画課、システム管理室で協力し合い、算定要件や内容の検討・ヤギーシステムの構築を行い、算定可能な状態を整えた。近森病院での褥瘡の予防・治療の質の改善に寄与している。また、安松看護師は認定看護師として、近森イズムの発揚にも大いに寄与した。
10	近森病院フットケアチーム	西村剛／川田愛弓／安光晃利／後藤玲子／下元小百合／岩井千代美／伊与田美香	糖尿病患者及び透析患者の、外来におけるフットケア対応とシステム整備を行い、患者の下肢切断に至らせない予防的介入や診療報酬算定に貢献した。入院患者においても､病棟よりのフットケア相談･依頼に柔軟に対応し､さらには地域コミュニティとして、フットケア患者と顔の見えるネットワークを構築するなど､フットケア普及に尽力した。
11	近森オルソリハビリテーション病院急変時対応技術向上チーム	西森公美／辻本美和／秋沢美保／岡林巧也／江藤末子／丁野美也子／矢口操／岡村美紀	急変時対応技術向上のため、毎月１回ベッドサイドにて講習会を精力的に開催し、職員のスキルアップに貢献した。また、各病棟の不参加者を洗い出し、声かけをするなど、地道な頑張りが病院全体の医療の質の向上にもつながっている。
12	診療支援部施設用度課 診療支援部システム管理室		近森会グループの７カ年計画において、新築・増改築の設計段階より関わり、関係部署との調整をしてくれたお陰で引っ越しが安全に速やかに完了し、移転後の業務も円滑に行えた。影の功労に感謝する。

あなたの撮った近森会

高知市第 32 回都市美デザイン賞 受賞記念

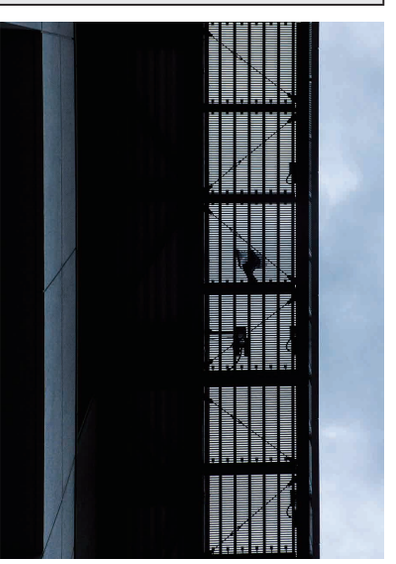
近森病院呼吸器外科部長　山本彰　「近森病院のヘリポートを内覧会にて撮影しました」



▲ヘリポートのライトの面白い形を発見！

◀ヘリポートの下、
ひっそり高架水槽

▶縁の通路下から。
気づかないアングル！



乞！熱烈応援

学ぶことを忘れず

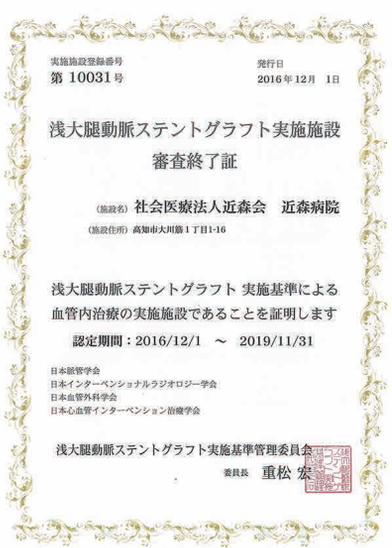
近森病院　臨床栄養部
科長　内山　里美

病棟管理栄養士に求められることは、チーム医療人として専門性を発揮し、患者さんに応じた質の高い栄養管理を展開することです。私の役割の一つはスタッフが栄養管理の質を担保できるよう、知識や業務といったあらゆる面でサポートすることなのかな、と考えています。そのためには私自身も学ぶことを忘れず、みんなと成長していけたらいいなと思います。　うちやま　さとみ

● 近森病院 ●

浅大腿動脈ステントグラフト実施施設に認定

浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会により、実施施設として2016年12月1日から2019年11月31日までの3年間の認定を受けました。



実施施設登録番号
第 10031 号

発行日
2016年12月 1日

浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
審査終了証

（施設名）社会医療法人近森会　近森病院
（施設住所）高知市大川筋1丁目1-16

浅大腿動脈ステントグラフト 実施基準による
血管内治療の実施施設であることを証明します

認定期間：2016/12/1 ～ 2019/11/31

日本脈管学会
日本インターベンショナルラジオロジー学会
日本血管外科学会
日本心血管インターベンション治療学会

浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会
委員長　重松 宏

緩和ケアイベント　2016年12月2日

癒やしをあなたに

緩和ケア委員会　委員長
近森病院消化器内科科長　富田 秀春

前年度に引き続き、「癒しをあなたに」と題し、緩和ケアを知ってもらうイベントを開催しました。

いのちのスープやサプリメント試飲など、多くの方に立ち寄っていただきました。また、院内職員向けに研修会も行ないました。

病名告知やDNAR（心肺蘇生を行わないこと）について、ロールプレイやグループワークをしながら、自分ならどうする、家族ならばどうしたいかなど、活発な意見交換ができ、充実した時間となりました。

とみた　ひではる

ワイン講座 ● 48

ぶどう品種を知り、個性を探る
白ぶどう その26
スペイン篇　ガルナッチャ

グラタヨップス・ヴィ・デ・ヴィラ／アルバロ・パラシオス／スペイン、プリオラート地区 ● 1997年創業と歴史は浅いながら、この地区ではトップクラスの評価を得ています。伝統品種と伝統的な製法に立ち返ったワイン造りを行っています。滑らかなタンニンと繊細で綺麗な酸が特徴です。また若い年代でもこんなにスイスイ飲めるのは樹齢の高さ（14年～70年）を物語っています。

スペインの北東部　アラゴン地方が原産地と言われ、そこから地中海沿い、フランスのローヌ地方、世界中に広がっていったと考えられています。

干ばつや高温、土壌を選ばず、また病虫害にも強いなどの利点から、赤ワイン用の品種としては世界最大の面積を誇ります。

スペイン国内では、バルセロナ近郊のプリオラート地区が最も優れた産地として知られており、最も成功した世界で一番高価なグルナッシュ種主体のワインもこの地区で造られています。

グルナッシュの特徴は、アルコール度数が高く、タンニンは少なめ、スパイシーかつフルーティなタイプになり、味わいはまろやかで甘みを感じさせる果実味、クローブなどの甘いスパイス、あたたかさを感じるやわらかな味わいが特徴です。

単一品種で造られることは稀で、他の品種をスパイス程度ブレンドすることでバランスを取りその個性を表現しています。

鬼田知明（有限会社鬼田酒店代表）

出張報告　2016年11月12、13日

近森がうらやましがられたこと

初期研修医　金子 昌憲

今回、私たちは大阪の淀川キリスト教病院で行われた「第４回 VHJ 研修医・指導医交流会」に参加しました。

今回は VHJ 加盟の全国 25 の病院から、選ばれしスーパー研修医達が集まり、「私達の病院はこうだ！」ということを ER 研修と研修医生活についてディスカッションし、そこで出された意見のなかからいいものだけを集めて、「理想の研修病院をつくり上げよう」というテーマで、熱く楽しく語り合ってきました。

近森にあるシステムでうらやましがられたことは、

- 素晴らしい研修医マニュアルがあること
- 24 時間 CT や MRI がとれること
- 当直明けに帰れる雰囲気を作ってくれていること
- 内科外科の当直がわかれていて両方集中してみられること
- 手技コール表があること
- 2 年目の先輩が優しく頼りになること、などでした。

その他の意見はさまざまでしたが、全国の病院の研修医の話を聞き、刺激をうけました。

まとめますと、近森病院は充実した研修生活を送れる良い病院だなと素直に感じました。院内旅行が復活すると、日本一の病院だと思います。

かねこ　まさのり

ハッスル研修医

私が医師を志した理由

初期研修医　西田 一平

小学校３年生までに書けるようになるシンプルな名前が自慢です。中学校から部活で卓球を始め、現在も社会人リーグにお世話になりながら何とか継続しています。岡山で生まれて高知で育ちました。

体が硬いのか不注意な性格からか、小さい頃からよく怪我をしました。ADL（当時こんな言葉は勿論知りませんが）が回復してゆく喜びやそれを手伝える仕事に魅力を感じ、不勉強ながら医師を志しました。今でも患者さんが元気になって退院していくのを見ると、それまでの積み重ねが報われるように感じます。

近森病院はコメディカルの方々とのコミュニケーションが活発で、「チーム医療」という言葉がとてもしっくりくる病院だと感じています。様々な職種の方からご意見やご質問を頂く機会が多く、日々勉強させて頂いています。先輩の先生方もご多忙にも関わらず丁寧にご指導下さり、感謝の言葉もございません。将来的に高知の医療に長く携わっていければと思います。不注意な私ですが、どうぞ宜しくお願い致します。

にしだ　いっぺい

お弁当拝見 48 普通のお弁当

近森病院外来センター
看護師　伊与田 美香

忙しい母にかわり、学生時代からお弁当作りを始めて何年になるでしょうか。自分の手で食事を作ることを通じて、食材や調理方法について学ぶことができ、体の健康だけでなく心の成長にも深く関わっていると思います。

お昼休みにみんなと食べる昼食は大切なコミュニケーションの場です。今はコンビニがあり、冷凍食品がたくさんありますが、できるだけ自然の食材で手作りするよう心がけています。まだまだお弁当作りは終わりそうにありません。

いよた　みか

近森病院医療安全推進月間 特別企画

医療安全川柳大会

テーマ「**患者誤認**」職員よりたくさんの作品の応募があり、入選作品三〇句が選ばれました。その中から、いくつかご紹介します。

はじまりは　恋も仕事も　〝君の名は？〟

人を見ず　文字だけを見て　何看るの？

「〇〇さん」　患者五人が　みな返事

近森会●バレーボール大会

11月27日にバレーボール大会を開催し、66名の参加がありました。優勝はFlair（フレア）チームです。

人の動き　敬称略

おめでとう

図書室便り　2016年10月受入分

- 疾病、傷害及び死因の統計分類提要 ICD-10（2013年版）準拠第1巻 Tabular list（内容例示表）、第2巻 Instruction manual（総論）、第3巻 Alphabetical index（索引表）／厚生労働省大臣官房統計情報部（編）
- WMA医の倫理マニュアル2015年改訂（原著第3版）／World Medical Association（編）

《別冊・増刊号》

- 日本医師会雑誌第145巻特別号（2）生涯教育シリーズ91 皮膚疾患ペディア／浅井俊弥（他編）
- 透析ケア2016年冬季増刊どんなシャントも怖くない！透析スタッフ必携！穿刺攻略ブック／宮下美子（編）
- 呼吸器ケア2016年冬季増刊オールカラー救急から在宅までどことん使える！酸素療法まるごとブック／石原英樹（他編著）

2016年11月の診療数　システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	19,010人
新入院患者数	1,000人
退院患者数	1,001人
近森病院（急性期）	
平均在院日数	15.32日
地域医療支援病院紹介率	68.74％
地域医療支援病院逆紹介率	153.52％
救急車搬入件数	587件
うち入院件数	318件
手術件数	486件
うち手術室実施	304件
うち全身麻酔件数	179件

●2016年11月 県外出張件数●

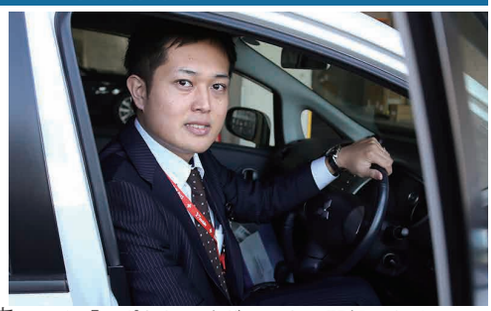
件数72件　延べ人数139人

編集室通信

私のお正月の恒例行事は福袋購入。最近では、中身が見えるものもありますが、やっぱり何が入っているのか想像し、重さを確かめたりしながら選ぶドキドキ感と、選んだ福袋の中身が値段以上の価値があり、欲しかった物が入っていたときの大当たり感は、やめられません。さて、今年の福袋の成果は・・・?!　（福まま）

人物ルポ 316 ●近森病院 地域医療連携センター／北川真也さん

「フリーダム＆フレキシビリティ」を胸に…



▲「アポなしですが…」と、郡部のクリニックへ向けて出発の直前に、病院前で

▼ DMAT（災害対策医療チーム）の一員としての活動もあり、これは訓練中の一枚

地域医療連携センター２年目

母親の「英語苦手意識」が、巡り巡って結局は、今日の北川さんの地域医療連携センターでの立ち位置に繋がっているといえそうだ。異動から一年、仕事内容の大枠をつかみ、新たに踏み出す一歩は、「限られた範囲とはいえ、必要があればどんどん改善していけるし、何でもないような気づきを『提案』として認めてもらえる環境をいただいた。職員として大切にしてもらっていると感じるから、やり甲斐に繋がるし、頑張れる。連携をカンタンには語れないけれど、ワクワクする毎日」だと、大きな身体からはエネルギーがこぼれそうだ。

「実践が本番」式の学び方が

英語と出会ったのは 20 年以上前の小学生になったばかりの頃。母親の勧めで通い始めた英語の個人塾で、白い枠に「レッドやブルー、グリーンで色を塗ってね」から始まり、英検準一級までたどり着いたのは大学時代。「コツコツ努力は苦手でも、『実践が本番』式の学び方が向いている」とは本人の分析。

「社会人」の厳しさと向かい合う

扱う製品を海外で売り出すような仕事に携わりたいと、高知の老舗メーカーに新卒で就職。本人曰く、「社会人としての未熟さにどうしようもなく悩み、もがき続けた」。希望通り海外への製品営業も担当させてもらい、2 年目で本社勤務から東京の支店へ異動。国内外の大企業を相手に仕事ができる環境で、駆けずり回った。しかし「手応えよりも、多忙さを充実感に変えるほかない」というのが当時の正直な感覚だった。

東日本大震災に現地で遭遇したのは、そんな頃。経験したことのない災害を目の当たりにし、衝撃を受けた。ただ毎日もがいていた自身の心の奥底に、「もっと自分たちの暮らしに身近で、喜びや幸せに触れられる仕事をしたい」という思いが少しずつ生まれるきっかけにもなった。

幾重のタイミングが縁となり

ほどなくして高知へ戻ることとなり、そのタイミングで覗いた転職サイトで見つけた近森会の求人情報。そこには「病院運営に関わる事務職」の文言。兄が言語聴覚士ということもあり、医療業界には素直に興味が湧いたが、入職試験は平日実施だから、受験自体を諦めざるを得なかった。

ところが、たまたま試験日が台風の直撃予想と重なり、「土曜日に予備日を設けるが…」と、総務課長からの連絡。「土曜日なら伺えます。受験させてください！」。それが、平成 24 年 8 月 16 日付の入職に繋がった。

どんな職種でも患者さんのために

「病院の運営とは何か」、あまりよく分からないままの転職ではあったが、充実している！と素直に思えるのは、「もっといい病院にしよう！という気持ちで働いている仲間がたくさんいるから」だという。

しかも、「病院という職場は何をやっても、どんな職種でも、結局は患者さんのために働くことができる」。営業マン時代には得られなかった「自分の仕事の結果をすぐ近くで見ることができる実感」を、いま味わっているのだという。

ところで、英語の次に長い付き合いになるのが「ドラム演奏」である。「叩けば音が出るし、ムズカシイ音階がない。この自由度の高さが、自分には向いているように思える」のだそうだ。

フリーダム＆フレキシビリティ

北川さんの感覚では、「フリーダム＆フレキシビリティ（自由と柔軟性）」を重んじる近森会の風土は、幼い日に母親に勧められた英語をきっかけに、慣れ親しんできた自由に羽ばたくイメージに、とてもしっくりくるようだ。

入職一年目のファミーユ高知に始まり、医事課、そして地域医療連携センターへと、4 年間で三つの部署を経た北川さん。なにごとにも柔軟に対応できる彼だからこその異動ということなのだろう。

いま地域医療連携センターの一員として、またプライベートでは最近、伴侶も得て、「新たな一歩を自分なりに踏み出したい」と、意欲に燃えている。

地域医療連携センター

●医師・看護師・ソーシャルワーカー・事務など、多職種で、地域の医療機関との連携をはじめ、患者さんやご家族の相談窓口としての機能を果たしています。

●主な業務は①紹介予約係（紹介予約センター）：患者さんの外来受診予約調整②病床管理係：ベッドコントロールと前方連携③総合相談係：医療制度や地域連携に関する相談窓口④退院支援係：退院や転院に向けた支援および後方連携⑤データ管理係：地域連携に関する様々なデータ分析や情報収集

●本館C棟 1 階を拠点に、院内外で幅広く業務を行っています。

「内視鏡で治療する喘息治療」

高知県初

気管支サーモプラスティ県内１例目の症例報告

近森病院呼吸器内科
部長　石田 正之

▲筆者（左）と第１例目の患者さん

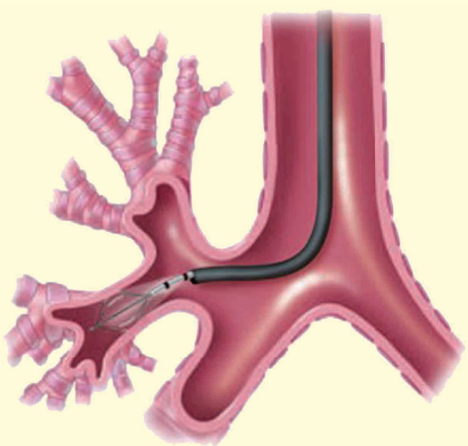
これまで気管支喘息の治療は吸入ステロイド剤を中心とした薬物療法が主体でした。しかし、治療をしっかり行っていても、発作をコントロールできないような重症の喘息の方もいらっしゃいます。そのような方々に新たな治療として誕生したのが、気管支サーモプラスティです。

この治療は、内視鏡を用いて特殊な器具を使い、65℃で10秒間気管支の壁を温める事で、気管支喘息の発作の原因の一つである、肥厚した気管支周囲の平滑筋という筋肉を減少させ、発作が生じにくくさせるものです。2015年４月より日本でも一定の基準を満たした施設において、この治療を行う事が可能となました。2016年９月の時点で当院も含め62施設で導入され、四国では高松の病院に続き、２番目の導入となりました。

当院でも早期から治療を行える環境を整え、今回高知県下第１例目の治療を行いました。この方は成人発症の喘息の方で、最も悪いときは喘息の発作で年に5-6回の入院治療を要し、人工呼吸器管理が必要になることもあった方で、現在でも吸入療法に加えて、ステロイド剤の内服も必要としていた方でした。今回治療が終了してまだ日が浅いのですが、「息がしやすくなった」「周りから元気になったと言われる」など自覚症状の改善だけでなく、喘息の自己管理に用いるピークフロー値も治療前後で40-60L/分程度の改善も認められています。

今後長期的な効果の観察が必要ですが、この治療が喘息で悩む方の一助になればと考えています。

いしだ　まさゆき



新しい喘息治療である気管支サーモプラスティ

一回の治療時間は60分程度で、一回の治療ごとに１週間程度の入院となります。それぞれの治療は、３週間以上の間を空けて３回行います。対象となる患者さんは18歳以上です。受診には予約が必要ですので、受診希望の際はかかりつけ医へご相談ください。

本館受付前水槽 僕らはみんな生きている４

ブルーレインボー

成熟すると写真のように上下に幅広くなる。小さいうちはこの半分ぐらいの上下幅しかない。大きくなるにつれ体長は10センチほどにもなり、家庭用の小さな水槽に２、３尾いると、ちょっともてあましてしまう。元々はパプアニューギニアのクトゥブ湖やソロ川原産だというが、いまは絶滅危惧種となってしまい、東南アジア産が輸入されているという。（編集室）

職員対象　第64回　アンコール
チカモリ・シネマクラブ